

令和5年6月13日

全国歴史教育研究協議会
会 員 各 位

全国歴史教育研究協議会会長
東京都立武蔵高等学校長兼附属中学校長
南 和 男
東京都歴史教育研究会見学委員会委員長
東京都立西高等学校副校長
高 野 祥 一

全国歴史教育研究協議会 第64回大会 史跡見学会のご案内
「東京の事件史をめぐる～『歴史総合』の授業づくりに向けて～」

初夏の候、皆様におかれましては、ますます御盛栄のこととお慶び申し上げます。第64回全国歴史教育研究協議会史跡見学会を企画いたしました。ここに、ご案内いたします。今回は、歴史的に著名な事件に関連の深い場所を貸切バスでめぐりながら、資料館・文書館を見学します。

午前は、安政の大獄の橋本左内、二・二六事件の磯部浅一らの墓所がある南千住・回向院を經由して、東京大空襲・戦災資料センターを見学します。同センターでは館長の吉田裕氏（一橋大学名誉教授）からご挨拶をいただきます。

午後は、関東大震災で大きな被害が生じた陸軍被服廠跡の横網町公園、終戦直前の「宮城事件」の舞台となった旧近衛師団司令部を經由して、国立公文書館を見学します。公文書専門官から館の概要について解説をいただいたのち、二・二六事件および極東国際軍事裁判関係の公文書を見学します。その後、紀尾井坂、高橋是清旧宅跡（高橋是清翁記念公園）、総理大臣官邸、虎の門などをめぐり、日比谷公園、東京駅（原敬首相遭難現場）を見学します。

授業づくりに活用できるコースを編成いたしました。皆様の参加を心よりお待ち申し上げます。定員は40名とさせていただきます（先着順）。

- 1 期 日 令和5年7月29日(土) 雨天決行
- 2 見学地 都内各地（南千住回向院、東京大空襲・戦災資料センター、旧近衛師団司令部庁舎、国立公文書館、日比谷公園、東京駅など）
- 3 集 合 午前9時00分 上野恩賜公園第一駐車場（上野駅公園口より徒歩3分）
- 4 解 散 午後5時00分(予定) 東京駅丸の内南口改札前
- 5 参加費 8000円（施設入館料、資料代、昼食代含む）
- 6 申込方法 全歴研第64回大会申込サイト(<https://va.apollon.nta.co.jp/zenreki64/>)に所定事項を入力してください。

【QRコード】



- 7 申込締切 令和5年7月21日(金)

全歴研大会史跡見学会の主な見どころ

ゴシックは、全国歴史教育協議会 編（2022）『日本史用語集 改訂版』山川出版社 に掲載されている用語

〈午前〉

旧駒本小学校跡(車窓見学)

1932(昭和7)年2月、**血盟団事件**で**井上準之助**前蔵相が暗殺された。同校は1876(明治9)年に東京市駒本尋常小学校として現・文京区向丘2丁目に開校、1888(明治21)年に移転(現・都立向丘高校の一部)。1945(昭和20)年4月13日の空襲で校舎が全焼し翌年閉校。現・駒本小学校は1954(昭和29)年に旧校地より北へ約300mの現在地に改めて開校した。

回向院

江戸時代の小塚原刑場跡にある荒川区南千住5丁目にある**浄土宗**寺院。1667(寛文7年)、本所の回向院により開創。**安政の大獄**で刑死した**吉田松陰**・**橋本左内**・**頼三樹三郎**のほか、**二・二六事件**で死刑となった磯部浅一の墓所がある。「**観臓記念碑**」は、1771(明和8)年に**前野良沢**・**杉田玄白**らが見学した腑分けが『**解体新書**』翻訳出版の契機となったことを祈念したもの。隣接する延命寺には無縁となった刑死者らを供養する「**首切地藏**」がある。

東京大空襲・戦災資料センター

東京大空襲をはじめとして、国内外の空襲とその被害についてその記録と記憶を伝え、学ぶ場として、東京大空襲の記録を収集し、出版し続けてきた**早乙女勝元氏**(故人)が2002(平成14)年に開設。収蔵資料の大半は、「**東京空襲を記録する会**」が収集したもの。「**東京都平和祈念館**」設立を前提として東京都が保管してきたが、建設計画の凍結にともなって「記録する会」側へ返還されたことをきっかけとして、資料センター設立運動が始まった。民営の資料館で、公益財団法人政治経済研究所の付属施設という位置づけになっている。政治経済研究所の起源は、**企画院**の外郭団体として1938(昭和13)年に設立された財団法人東亜研究所。今回の見学では現館長の吉田裕氏からご挨拶をいただく予定。

都立横網町公園(車窓見学)

100年前の1923(大正12)年、**関東大震災**で避難民が殺到した陸軍被服廠跡に火災が及び、約38000人の死者が発生、四十九日にあたる同年10月19日には東京府市合同の大追悼式が挙行された。1930(昭和5)年9月1日に横網町公園として開園。中心となる「**東京都慰霊堂**」は当初、震災犠牲者の遺骨を納める「**震災記念堂**」とされ、後に**東京大空襲**犠牲者の遺骨も納められたことから1951(昭和26)年に現名称になった。復興記念館は震災記念堂の付帯施設として1931(昭和6)年に開設された。

昭和館・九段会館(車窓見学)

旧**江戸城**の田安門付近。昭和館は、厚生省(当時)が戦没者遺族への援護事業の一環として1999年に設立した。おもに戦中・戦後(昭和10~30年頃)の国民生活を実物資料や映像などを用いて伝える。敷地内には**蕃書調所**跡の標柱が建つ。当初は**洋学所**と称し、神田小川町あった。九段会館は、昭和館に隣接する和洋折衷の「**帝冠様式**」の建物。在郷軍人のための帝国軍人会館として、1934(昭和9)年に竣工し、1936(昭和11)年の**二・二六事件**では戒厳司令部がおかれた。

〈午後〉

北の丸公園

旧江戸城北の丸は竹橋と一番町を結ぶ代官町通りと千鳥ヶ淵・牛ヶ淵・清水濠に囲まれた区域で、本丸台地に続く田安台につくられた。千鳥ヶ淵から乾濠に通じる川の谷を埋めて拡張したもの。明治になると、**廃藩置県**に際して北の丸に**御親兵**(のち**近衛兵**)の兵営がおかれた。1878(明治11)年には、近衛砲兵第一大隊の兵260余人が「**竹橋事件**」(**西南戦争**の論功行賞と減給への不満が原因となった反乱)をおこしている。

旧近衛師団司令部庁舎

陸軍技師田村鎮が設計を担当したと推定される。ゴシック様式の二階建て赤レンガ造。1910(明治43)年に竣工して以来、**関東大震災**や**第二次世界大戦**でも罹災しなかった。1945(昭和20)年8月15日未明には、戦争終結に反対する陸軍青年将校らが師団長を殺害して命令書を偽造し、**玉音放送**阻止を図った「**宮城事件**」の現場となった。戦後は皇宮警察の職員宿舎として利用。一時は取り壊しも計画されたが保存運動の結果、1977(昭和52)年からは「**東京国立近代美術館工芸館**」として利用された。2020(令和2)年に「**工芸館**」の金沢市移転にともない閉鎖されたが、外観は柵の外から見学可能。

国立公文書館

独立行政法人国立公文書館は、国の行政機関などから移管された歴史資料として重要な公文書等を保存管理する機関。1971(昭和46)年7月に開館し、現在はつくば市に分館をもつ。明治以来の行政文書や司法文書(一部)を保存・公開するほか、内閣文庫では旧江戸幕府から継承した古典籍・古文書を所蔵している。今回は、**二・二六事件**関連資料のうち民間から寄贈された「**矢野 機** の はかる 関係文書」、**極東国際軍事裁判**関係文書を見学する。

日比谷公園

1903(明治36)年に開園した、日本初の西洋式(ドイツ式)庭園。長州藩毛利家・佐賀藩鍋島家の上屋敷跡で、明治初年の火災で焼失したのち、陸軍練兵場となっていた。公園北側の日比谷公園記念資料館は、1910(明治43)年に竣工したドイツ・バンガロー風の建物で、明治期の数少ない木造洋風建築として貴重。南側の日比谷公会堂は、東京市長**後藤新平**の計画に基づき、1929(昭和4)年に**安田善次郎**の寄付によって建設されたネオ・ゴシック風建築。公園側は日比谷公会堂、外堀通り側は市政会館として運営されるが、建物としては一体という特殊な構造である。この公園でおきた最大の事件が**日比谷焼打ち事件**である。**日露戦争**の**ポーツマス条約**で賠償金をとれなかったことに不満をもつ民衆の暴動は、旧野外音楽堂(現在の大噴水付近)から発生した。

東京中央停車場(東京駅)

開業は1914(大正3)年12月。設計者の**辰野金吾**は、**ジョサイア=コンドル**から西洋建築を学び、明治建築界を主導した。外壁には赤レンガ・白御影石、ルネサンス様式の表現を用いる。左右のドームの両翼間は約335m、中央玄関は皇室専用で、一般旅客は南口を入口、北口を出口として利用した。第二次世界大戦の空襲で大半を焼失し、戦後は2階建てとして再建された。2007~12(平成19~24)年に保存・復元工事が行われ、創建当時の姿が再現された。1921(大正10)年11月4日、**原敬**首相が丸の内南口の改札手前で山手線大塚駅員中岡良一に刺殺された。1930(昭和5)年11月14日には**浜口雄幸**首相が8番線北側階段で、愛国社社員**佐郷屋留男**に狙撃され重傷を負っている。